

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【地域別】滝ノ上会館【概要】

日時：令和6年3月17日（日）

10時30分～11時40分

場所：滝ノ上会館

1 開会の挨拶

（市長）

皆様、おはようございます。本日は、日曜日の午前中、このような早朝にもかかわらず、このように大変多くの皆様方にお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

昨年の9月の8日に第23代の立川市長に就任をさせていただき、ようやく半年余が経過いたしました。私にとっては、このような市民の皆さんと様々な機会でお話をさせていただくこと、皆様方の生の声をお聞かせいただくことは、これは何よりも今後の市政の運営の基礎とすべきものと考えております。

市長を就任以来、私もこの「市長と語ろう！」というタウンミーティングについては、今回で6回目。一番最初が老人クラブ連合会の皆さん、次に子育て世代の皆さん、さらに大学生を含めた若者世代の皆さん、先々週は西砂学習館で周辺地域の皆さん、そして立川市役所で周辺地域の皆さんと対話をしました。本日、こちら滝ノ上会館で行わせていただき、午後はさかえ会館で行わせていただく予定です。本当に多くの皆様方がお集まりで、なかなか時間内に全ての皆様方の御質問にお答え切れなかったところも、特に市役所は30、40名ぐらいですか、皆さん一斉に手を上げていただくので、なかなかお答え切れない部分もありましたけれども、いろいろと皆様方の立川市に対する御要望や、あるいは疑問点について、私自身の言葉でお答えをさせていただきたいと思っております。

私、時間の許すときには日中ふらっと地域の学習館であるとか、いろいろな施設にふらっと現れて、そこにいる市民の方に、市民サービスどうですか、何か不都合はありませんかというようなことをお聞きをしたりだとか、そういったことも普段は行わせていただいています。皆様方のお近くにももしかしたら突然通りがかりの市長が現れるかもしれませんけれども、その際にはお気軽にお声をかけていただければと思っている次第でございます。

一昨日まで予算特別委員会で、今日、瀬議員が地元でいらっしゃっておりますけれども、瀬議員が予算の特別委員長として議論を活発に行っていただき、予算委員会の中では、多分半世紀ぶりに全会一致で令和6年度の予算案、一般会計予算ほか、お認めをいただきました。最終日、3月22日に御議決をいただきますと、4月1日以降で、私が先般皆様方にも広報でお知らせをしたり、あるいは立川市のYouTubeのチャンネルの中でも概要をお知らせをしたり、私の動画チャンネルの中では私の政策、公約に絞って何が実現をしているのかということを示させていただいておりますので、併せて御確認をいただければと存じます。

どうぞ、今日はよろしくお願いいたします。

2 意見交換会

(司会)

それでは、御意見のある方は挙手をお願いいたします。最初に挙手をされた方、お願いいたします。

(参加者)

座ったままでもいいですか。立ったまま？

(市長)

お座りになって。

(参加者)

前回、市役所のときは全然当てられなかったので、ここに来ました。

(市長)

それは失礼しました。

(参加者)

意見と御提案を申し上げます。

まず、前書きとして、行政が子育て支援に力を入れているまちは魅力ある、住みたいまちにランクインされています。いわゆるコスパのよいまちが選ばれています。コスパがよいまちの選定基準というのが3つございまして、買物や外食ができるお店が揃い、暮らしやすい。交通の便がよく、車がなくても移動がしやすい。ここが大事なんですけども、それであと3つ目として、ネームバリューがありながら家賃相場が低めということで、今ネットとかいろいろランクづけの中でも、立川市は相当全国の中でもトップ15の中に入っているというまちです。

その中で、マイカーを使うより公共交通を使うほうが便利という地域は、このような都市部の一部だけなんです。立川市は全国的にもコスパのよいまちにランクされていますけれども、そういう意味合いでは本当にどうなのでしょうかとこのところのお話です。立川市には、公共交通空白地帯が自治会単位で点在しております。子育てママさんたちや自立生活を頑張る高齢者の方々は、自宅からの移動手段に悩む方々が潜在的に多い地域がございまして。マイカーが使えない、持てない市民層とは、大体、大卒高齢者と子育て世代がお昼の時間帯に困っているわけです。

ここで意見なんですけれども、コミュニティバス運行について御意見申し上げます。私自身は数年前に地域公共交通会議の委員をやっておりました。その関係もあってよく分かるんですけども、今後、地域実態調査をしていく取組というのは、地域の移動手段の確保支援の方法論を見極める大事な調査です。しかし、問題はくるりんバスを今後どうしていくのかということです。乗車率が上がるマーケティング手法を持つプロの方々が今回の調査結果を解析して、市民の乗車率が上がる乗り物にできるかどうかということに期待はしております。

実際30%を切っている路線が多いという中がございまして、それは立川だけではなくてほかのまちもそうなんです。しかし、何が何でもむきになって、武蔵野市みたいに狭隘道路、いわゆる細い、やっとなんとか通れるような道路まで大きな路線バスを走らせるような試みは本末転倒だと思っております。目的と手段が逆転にならないようにしてくださいということです。

次に御提案です。高齢者による自動車加害事故の増加は、マイカー以外の移動手段の選

択肢があれば、減少するということが期待できます。同じ地域の実態調査でも、いわゆるこのような移動手段に困っているが意見を顕在化してくれないといったような、いわゆるサイレントマジョリティーという方々の実態調査をしてほしいという、そういう思いがございます。

御提案なんですけれども、今後くるりんバスを、ちょっと専門的な用語になりますが、シビルミニマムの運行、いわゆる一番乗車率が高いと言われている朝と夕方の通勤通学時間によく利用される時間帯に絞って、それで昼間の時間というのはタクシーや庁用車を使ったデマンド運行や、最近話題になっている自治体型のライドシェアタクシーです。日本版、いわゆる企業型のライドシェアタクシー運行ではないです。自治体型ライドシェアタクシーの立川市としてのオリジナルな新しいモビリティの在り方を、市長の第2章の取組の中に向けて準備してはいかがでしょうかということです。

現在、地域ニーズに応じた地域の新しい移動手段がすごく求められていますので、ここで自治体型のライドシェアに、日本型ライドシェアの導入議論、デザイン化していくという会議体を、利害関係があるのが地域公共交通会議なので、市民ファーストで立ち上げていただいて、準備に入っていただくのはどうでしょうかというところでございます。

ありがとうございます。

(市長)

ありがとうございます。私も座ったままでいいですか。御提案ありがとうございます。

1点目の御質問の中で、コスパのよいまち、また住みやすいまちということでお話をいただきました。確かに立川市は買物もとてもしやすい。また、子育てしやすいまちという形では、私の新年度の予算はかなり、これは二者択一ではなくて比重のかけ方であろうかと思えますけれども、近年選ばれるまちにしていくためには、やはり子育て支援の部分に少し重心を置かせていただいております。

また、ネームバリューがありながら家賃というと、これが一番難しいですね。ネームバリューがあってもみんなが住みたくないと、これは資本主義社会の原理で、需要が高まると需給の関係で値段が高くなる。今、立川市で一戸建てのおうちを買うところの値段を見ると、私がローンを組んだ頃とは多分5割ぐらい、同じ規模でも高くなっています。今、立川市の問題で、いろいろな施設の再編整備をする中で、入札をかけても不調になってしまって、再度やり直すときに計算をし直すと、何割も高くなってしまうという問題が立川市にもあるんです。家賃のところは、民間の相場の話なので難しいかなとは思いますが、それでも立川市を選んでもらえるようなソフト面での施策については、今後私の市政の中でも、第2章の中でも、さらに進めていきたいと思っております。

今いただいたキーワードの中で、地域公共交通の問題について、来年度、令和6年度の中では、これ、実態調査をしようと思っています。実際にくるりんバスが走っていて、いろいろなところで御要望あるんです。錦町路線のようにかなり乗車率がいいところもあれば、西砂のほうのものとか、あと私が住んでいる曙支線という枝線のところで、乗車人数よりも空気を運んでいるほうが大きいんじゃないのかなというような。そういうところは、私はこれ、無駄だと思っていますので、くるりんバスを通して地域の交通を司っていくためには、やはり一定の乗車率が見込まれる、あるいはそれは当然需要にかなっているのか否かというところにあるかなと思います。

来年度の地域交通、公共交通の在り方を考えるときに、まずは幹の部分はこれは公共交

通機関、民業圧迫をしないように、民間の事業者等にお願いをします。枝の部分については、これはくるりんバス、あるいはそれ以外の公共交通手段も、今お話があったようにシビルミニマム運行という御提案もありましたけれども、何が何でも今のサイズのくるりんバスを運行するということは現実的ではないと思っているんです。

また、御要望をいただく中で、これは国分寺市さんの例なんですけれども、国分寺市さんも立川市と同じ形のバスをもともと走らせていました。今もそうです。ただ、そのサイズのバスですとなかなか入っていけない。これは国交省でバス停を造るための許可を得たり、あと管理者の警察の許可を得なくてはいけないとか、これ、バスを運行するのは様々な規制がかかっていて、そういった中で11人乗りのコンピューターであればいけるだろうという。これ、結構利用者が多いんですね。国分寺の北町の辺りであったと思うんですけれども、私の友人の国分寺の市議会議員は、だったら小さいのにすればいいんじゃないかといって提案をしていたら、それが実現したらかなり人気があった。だから、そういった既存のバスのサイズ感で狭い道まで入っていくということでは当然なくて、そういったサイズ感も考えなくてはいけないし、あるいはそのデマンド型のものもありましょう。

最後に葉っぱの部分でいえば、全ての家の人の前を通れるわけではありませんので、だからその起点から最後のラストワンマイルを、例えばこの富士見町地域でいえば富士見町団地であるとか、そういったある程度のところのターミナルまで来たら、じゃあそこから先どうするの？みたいな話の部分については、別の交通の新しいM a a S等の取組もありますけれども、そういったことも含めて、立川市全体の中で御高齢になっても移動しやすい交通体系をつくっていききたいなと私の中で思っています。

今、御提案の向きは、私もそういう視点を実は考えておりまして、ただその大前提になるには、どこにどれだけの交通不便地域があって、その中でその人たちがどういうふうな利用実態を望んでいて、どういう時間帯にどういうものが足りないのかというところを正確に把握してからではないと、ただ単にやみくもに路線を増やしました、でも赤字です、その補填を税金でやるというのはちょっと違うのかなと思っておりますので、来年度しっかりと実態調査から進めて、皆さんによかったねと言ってもらえるような計画にしていきたいと思っております。

当然、公の会議だけではなくて、公共交通と、ぶつかり合うのではなくて、いかに調和を図っていくのかという視点も取り入れながら、市民の皆様方の声も十二分に私の中では酌み取っていききたいと思っております。

すみません。市長、いつも答弁が長いと予算の委員長にも言われておりますけれども、ということで考えております。よろしいでしょうか。

(司会)

ありがとうございます。

それでは、次の方、正面の方、お願いいたします。

(参加者)

私は立川について怪しげな印象を持っているので、それについての考えを聞きたいです。

というのも、立川というのは経済的にはすごく発展しているほうですけども、駅前とかギャンブルの施設があります。特に南口なんですけど、夜の治安があまり良くない。さらには、宗教施設がいっぱいある。経済が発展していてそのような施設が多くあると、そこには何かあるんじゃないの？という雰囲気が出てしまうと思うし、ギャンブルの施設とい

うのは実際に市民のモラル低下につながると考えています。

以上のことから、そういう印象をなくしたいと僕は考えていて、具体的に言うと、そういう施設を減らしてほしいと考えています。

酒井さんはどう考えますか。

(市長)

ありがとうございます。

まずどこから答えようかな。一点は、宗教。これは当然信教の自由もあって、それぞれの方たちがその宗教を信じることによって、心の救いなり、あるいは生活の充実を得られている部分がありますので、日本の国の中では信教の自由ということもありますから、その心のなかにまでこれは行政が立ち入ることではないと思っておりますから、それを出ていってくれということは、私の中では考えておりません。

また、逆にそういった方たちが、例えば地域の中で清掃活動に協力をしてくれたりだとか、いろいろな形でプラスの面での作用もあります。

ただ、まちの、明らかに反社会的な行動を取られるような団体がここ立川に進出をしてくるといようなことがあったときには、それは地域の住民の皆さんと一緒に対応をしていかななくてはいけないのかなと思っております。

また、ギャンブルについては、立川市については競輪事業を長らく公営事業としてやっております。例えばこの滝ノ上会館をはじめとして立川市で施設が多いのは、過去競輪事業で70億以上の収益があって、今大体年間2億円ぐらいの繰入金なんですが、一定の社会基盤をつくっていく中では必要な事業です。

ギャンブル施設について、それも営業の自由があって、そこは規制をしている地域ではないので、その部分についてはなかなか言いづらいかなということです。

御希望に沿いかねるかもしれませんが、私の中ではそういうふうを考えています。

ただし、先ほどおっしゃっていただいた立川の南口地域の体感治安、これ、体感というのは人それぞれ違うんですけれども、これも議会の中でも御質問いただいているんですが、また私の政策の中でも、南口地域のすずらん通りの辺り、夜になるとすごいじゃないですか。治安も良なくて、道路も、車も走りにくい。そういった部分については、これは改善をしていかななくてはいけないということで、今、立川市では、御覧になったと思いますがこわもての警備員、昔の優しい警備員だと相手にしてくれないのを、歌舞伎町だとかそういうところで実績を積んでいる一見こわもての方に今警備をしてもらっているということで、それでもつかかってくる人間は当然いるわけですから、少しその分については効果が表れている。

ただ、これも慣れてきてしまっって、今の立川市の条例の中では十分な効果が得られないというのであれば、これも議会でもいただいたんですけれども、実効性のある条例というのも取締り機関である最終的には警察に何とかしてもらわなくてはいけないので、そことの調整を図りながら、南口地域において皆さんが、これもイメージで大変申し訳ないんですけれども、御高齢者であっても若い方であっても、女性であっても男性であっても、あるいはお子さんを連れて歩いていても、怖いなと思われなようなまちを、ちょっと時間がかかるかもしれませんが、様々な方策を講じながら取り組んでいきたいと思っております。

ということで、御回答とさせていただきます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、先ほど挙手されていた方。

(参加者)

よろしくお願いします。

(市長)

お願いします。

(参加者)

先ほど何回か、立川市は子育てしやすいというお話だったかと思うんですけども、実はその点で、私、今回お伝えしたいと思ったことがあって参りました。

(市長)

ありがとうございます。

(参加者)

正直、私は今とても子育てしにくいと思っております。今2歳と7歳の子どもがいて、昨年立川市に引っ越してまいりました。もともと主人の地元がこの立川で、主人からすると戻ってきた形になるんですけども。

2点ありまして、まず下の子、2歳の子なんですけど、保育園に入れませんでした。もともと前にいた自治体では認可保育園に通っていて、転園という手続で立川市に申込みをしたんですけども、認可保育園は全て落ちてしまいました。何とか認証保育園に入れたので取りあえず今年度に関しては事なきを得たんですけども、私も主人もフルタイムで共働きなので、ポイントとしては満点です。満点でも入れなかった。かつ、主人に話を聞くと、主人の砂川地域に関しては、30年間保育園が増えていないという話をしていました。もしかしたら人口の多い駅前の方なんかは年々増えているのかもしれないんですけども、少なくとも砂川地域では、主人の小さいときから保育園の数が変わっていないということだそうです。

先ほど道路でも空白地帯というお話がありましたが、今後立川市の保育園をどのように増やしていく予定なのか。ただ単に数を増やすのではなくて、30年間実際に増えていない地域がありますので、そういうところも踏まえてどこに増やすのか。そういう計画が実際にあるのか、あるのだったらどれぐらいで実現する予定なのかというのをお聞きしたいのと、実際この地域は大きな認証の保育園、幼稚園があるので、そちらがあるからという形で民間に任せきりになっていないのか、地域が偏っていないのかというところで、疑問があります。保育園に関して、これが1点目になります。

2点目、上の子なんですけども、来年度学童が待機になってしまいました。小学1年生のときには学童に入れたんですけど、2年生は申し込んで待機になってしまいました。何とかランドセル児童館というところで取りあえず放課後の行き場は確保できたんですけども、根本的な解決になっているとは全く思っておりません。

私の勤め先であつたりとか知り合いの同世代のお母さんたちに話を聞くと、調布、三鷹、武蔵野、小平に関しては小学校3年生まで確約されていると。ほかの近隣の自治体で3年生まで確約ができていないのに、何で立川市できないのかな、周辺の自治体でできていることがなぜ立川市ではできないのかなと、非常に疑問を持っております。私も都内の別の自治体出身で、私自身が小学校3年生まで何の疑問もなく学童にいられたので、30年前に

ほかの自治体でできていたことが、何で30年たっても立川市できないんだというのはとても疑問に思っています。

2年生、どうにかしなくてはと思って民間学童も見学に行ったんですが、私の地域は民間学童もまさに空白地帯になっておりまして、民間学童の送迎バスも通っていない地域になります。なので、民間の学童にも頼れず、とても困っています。

学童の待機児童というのは、昨年末か今年の初めかに、国のほうからも待機児童を減らすという方針が出ましたが、立川市は学童の待機児童を近いうちに解消する予定があるのか。具体的に言うと、うちの子はいつ学童に入れるんだろうということがとても知りたいです。

(市長)

ありがとうございました。子育てしにくいという観点から、2点。

私も今、多分同じぐらい、下の子は5歳で上の子は小学校4年生の父親です。そういった意味でいうと、ちょっと順番が逆なんですけど、うちの息子は学童は行かせませんでした。僕は第二小学校の卒業生なので、僕も学童は1年生で行って、途中でつまらなくなって、やめてしまったと。

ただ、いろいろと子どもの子育て環境が違う中で、これは前市政の中で取り組んできていたことなんですけれども、今、学童保育というよりも、「放課後子ども教室くるプレ」を順次拡大していこうということにしております。令和8年度までに全校実施がかなうというふうに記憶をしておりますけれども、くるプレの人気の高いので、くるプレを立川市内全域に増やしていこうという計画をしております。

そういった中で、ここで私の中にはまず小1の壁ということが昔から言われていて、保育園や、また幼稚園に通われていた方が、4月1日以降急に大人になるわけでもなくて、小学校に入っても初めのうちは帰ってくるのが早いじゃないですか、お昼ぐらいに帰ってくる。その子たちの居場所をどうするんだと言われていた小1の壁を何とかしなくてははいけないということを、私の中では思っていたんですけれども。今は逆に、立川市の場合には小3の壁で、今2年生で御希望に沿えなかったということは大変申し訳ない状況なんですけれども、担当の子育て関係の部からおとといぐらいに話を聞いて、措置状況について聞いたんですが、小3の壁のほうができてしまっているという話。

あとは、確かに待機児童は多いです。一方で学童保育所等で空いてしまっているところも、市内全体の中ではあるんですよ。待機児童が二百数十人だったと思いますけれども、その一方で百数十人だったかな、資料をちょっと見せてもらって、逆に定員に満たないところがあると。要は、当然子どもですからどこまで歩いていけるの？ という、御希望になられているところとなられていないところのミスマッチも多少ある。ただ、子どもが学校から歩いて行ける距離のところをどういうふうにするのか。一方で二百何十人入れない、でも百人ちょっと分は定員が空いている。ここをどういうふうにしながら、くるプレとの関係を合わせて小学校3年生までの待機児童を減らしていくのかというところを、来年度、知恵を絞らなくてははいけないなということはお話しておりますが、現時点でそういう状況になってしまったのはごめんなさいということです。

また、あと保育園についてなんですけれども、これ、認可保育園自体はほぼ待機児童はなくなっていると聞いております。それは国の政策もあって、認可保育園は多分立川市にはほとんど増えていないと思います。この数年間の中で、東京都の認証保育所があり、最

近では国の制度の中で0歳から2歳までの年齢の子の家庭的保育施設、小規模保育施設であるとか、あとは企業主導型保育施設等々をいろいろと合わせて待機児童の解消に努めてきたということです。

これ、私の経験知で、また市政の話でも、0歳から入ると入りやすいというのと、3歳になると定員枠が拡大して、そこになると保育園は入りやすい。1歳、2歳というところがどうしても定員がいっぱいになっていると、途中からというところがなかなか入りにくいというところがあるのは、これ、ずっと構造的な話としてあるので、そういったところのちょうど悪いところに入ってしまったのかなという話なのですが。

ただ一方で、私が市長に就任をしてから、ここでまた予算をお認めいただいておりますので、来年度から少し認証保所並びに企業主導型保育施設に通っている方への金銭面での子育て支援策は充実をさせていこうと思っているんです。認可保育園に入れた人と、そこではない認証保育所なり企業主導型保育施設の地域枠の中で入られている方って、親の負担が違うじゃないですか。かなり高いじゃないですか。それは私も担当の部長さんとやり取りをしていて、今まで取組は取組で、認証保育所までは保護者へも一部の補助を、1万円でしたかね。それを企業主導型保育施設にまで拡大して、もうちょっと立川市としての補助を、たしか2万円にしたんだよね。認証保育所も1万だったのを2万円にして、企業主導型保育施設のほうも2万円にして、東京都とか国の補助金を得ると第二子、第三子というところは結構出るんですね。なんだけれども、認証保育所に通っている方はそれを利用できる、でも立川市で企業主導型保育施設で第一子に対して制度をつくっていないと、国や都からの第一子以降のものが使えないということだったので、それは立川市が全部認可保育園で賄えるということであるならばいいんだけど。ただ、当然、認証保育所で特別な事業をやっていたりするじゃないですか。それを好んでいる方は好んでいる方でしょうがないんだけど、全体として立川市の待機児童解消を認証保育所も企業主導型保育施設も含めてやっているのであるならば、そこで親御さんの経済的な負担の格差がこんなにあるというのを、申し訳ないんですが財政上の問題もあってなかなかゼロにはしづらいんですけれども、少しでも底上げをしていきたいということで、今回の令和6年度の予算の中では対策も講じさせていただいているところです。

ということで、御希望に完全に沿えていないところが本当に大変心苦しいんですけれども、立川市としてはそういった取組をこの間してきた中で、ただ制度上、親御さんの負担感という部分について、少しでも軽減をしていきたいと思っております。

また、地域的な格差は、僕も本当にあると思うんです。ゆえに、保育送迎ステーションなるものも今準備をしているんですけれども、人気のあるところと、ないところがあって、そのアンバランスをどういうふうにしていくのか。あるいは、夫婦そろってお勤めに行っているときに、朝、めちゃくちゃ忙しいじゃないですか。うちも毎朝子どもを起こしてというところの嵐のような状態を経験しているので、その負担を少しでも軽減ができるような対策を、立川市でも先進市の、例えば送迎ステーションで松戸市であるとか、あと流山市等では導入しておりますので、そういったことも立川市の中でうまく先進市の事例をちょっと視察に行ってきて、それを立川版にどういうふうに取り入れられるのかということ、今、指示をしているところです。

と言いながらも、できた頃にはもううちの子どもは関係ないよと思われてしまうかもしれませんけれども、一つ一つではございますが、私の市政の中では子育てのしやすい、今

感じていらっしゃる事がすぐには解決できないのは申し訳ないんですけども、次に向かって改善を図っていきたいと思っております。

以上です。すみません、話がいつも長くなってしまって、丁寧に説明しようと思うとつい長くなって、申し訳ございません。

(司会)

それでは、そのほかの御意見がある方、挙手をお願いします。では、前の方、お願いいたします。

(参加者)

私が、町会の、市役所との手続等で感じていることなんですけれども、印鑑とFAX、これ、なかなかなくなるんですが、そういうデジタル化というのを私はもっと進めていただきたい。例えば、印鑑であればぜひPDFを認めていただきたい。FAXであれば、なくせないのであれば、電子メールを必ず認めてほしいなということですね。その辺からデジタル化をどんどん進めていただければと思っています。以上です。

(市長)

ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。

印鑑がまだ必要なものってあるの？

(総合政策部長)

いや、ほとんどなくなっていると思いますけれども。

(市長)

ほとんどなくなっている。FAX、今、普通使わないじゃないですか。だから、僕の中では別に電子メールでも。印鑑であっても、今、基本的には国も印鑑なしじゃないですか。

でも、確かにそう言われて、今日僕もさっき保育園の提出書類で就労証明書を作るのに、市長が市長の証明を作らなくてはいけないので、でも印鑑あるんだよなと思いながら、申込みのときには印鑑なかったのに、最後印鑑をもらうんだよなと思いました。まだ立川市の中でも押印が必要なものと押印が必要でないものの統一感が取れていない気がして、そこは整理をして、国の方針の中では押印廃止というところで、個人をちゃんと特定をしないといけない、実印を使う部分については、これは日本の社会の中のある意味本人をちゃんと認定をするという、確認をするということですので、それ以外に、認印に関しては必要ないと思っていますので、そこは整理させてください。

FAXがある家って、うちには一応はあるんだけども使っていないし、迷惑FAXしか来ないので、電子メールを活用したいということも今後導入できるようにします。

ただ、将来的になんですけども、そういったことは全て電子申請で完結をさせたいなと思っているんです。予約はシステムでできるんですけども、本申請はその場所まで行かなくてはいけない、お金もまたそこで払わなくちゃいけないことがある。その中途半端なシステムというのは僕は非効率だと思うので、システムを構築するんだったら予約から正式な本予約までで、利用料の支払いもインターネット上で電子決済ができるような、こういった形まで最終的には立川市のシステムを変えていかないと、僕は本当の意味での市民の負担軽減につながらないと思いますし、こちら側も、役所側も、それって、そのやり取りって無駄じゃないですか。

やっぱりそういうところの手間を少しでも省いて、その浮いた時間を、人員が余剰であればそれは削減をすべきだし、余剰じゃないということであれば本来の市民サービスに振

り向けていくという形の人材の有効活用のためにも、DX化というものは進めていきたいと思っております。

まずは、おっしゃっていた電子メールで、僕も全然いいと思います。

(総合政策部長)

担当のほうに聞かないと。

(市長)

担当に言ってね。すぐに、来年度のなるべく早いうちから。

(総合政策部長)

具体の何の手続きもおっしゃっていただければ、それを後で伝えます。

(市長)

じゃあ、終わった後にちょっと教えてもらえますか。

(参加者)

はい、分かりました。

(市長)

そしたら、担当者のほうに言って、すぐに改善、検討させます。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、そのほか御意見のある方。では、中央の方お願いいたします。

(参加者)

今回いろいろ意見が出たとおり、皆さんやっぱり真剣に考えられていて、それぞれの世代というか、人によってそれぞれの問題があるとか意見があるとかということは十分分かったので、時間のなかで申し訳ないんですが、私の意見というより、あまり問題ばかり考えてもというところで、私の立川に住んでみての感想です。

私の感想としては、もともと都内23区に子どもの頃住んでいまして、父方の実家がある立川に家を建てたので、小学校のとき、市長と同じ二小に入るべく越してきたんですけども。

(市長)

御近所ですもんね。

(参加者)

その越してくるときに、父方の祖父から、ちょっとショックだったんですが、立川というのは本当に環境が悪いまちだと言われました。特にまだ立川基地が、米軍が残っていた時代だったので。実際越してみても物すごく環境が悪い。23区に比べれば、相当環境が悪いまちだなと思っていました。

大学まで10年以上立川に住んでいて、就職と同時に神奈川のほうに越して、ちょっと事情があって7、8年前に立川にまた戻ってきたんですが。帰ってみて別のまちに生まれ変わったなというのが感想です。他市に勝っているとは思わないですが、別に負けているとも思えないような、すごくきれいないいまちになったなという感想です。

いろいろそれぞれ問題はあると思うんですけども、皆さん、そうやってよくしようというところもあるし、それからあと立川市の努力だけではなくて、例えば駅ビルがよくなったりとか、国営昭和記念公園になったとか、国の政策が合致して運がいい部分もあったと思うんですが、せっかくこんないいまちになったんですから、もっともっとこれから、

これを維持して頑張っていけるようお願いしたいなと。

ごめんなさい、最後に一つだけ。ごめんなさい、半分冗談ですけども、酒井様、市長になってもやっぱり相変わらず話が長いなと。申し訳ありません。

(市長)

いえいえ。すみません、市長になって、なお余計に話が長くなっていると思います。

いろいろと立川の感想をいただいて、ありがとうございます。多分、お住まいは御近所だと思います。

やはり当時と比べると、隔世の感があると思います。これは先達の市長さん、前の市長、また特にその前の青木市政時代に、旧立川飛行場を3分割して、国営昭和記念公園、広域防災基地、留保地という形にいただいた。その留保地の部分にファーレ立川ができ、また、立飛さんが今のGREEN SPRINGSをはじめとした商業施設をいろいろと展開し、また交通の結節点となるような多摩都市モノレールを誘致をしてもらったという、まさに先達の皆様方の御努力でこのようなまちのにぎわいができていると思います。

私の市政の目標といたしましては、こういったまちのにぎわいをいかに保ちつつ他市に負けないように、立川市を、ただ単に訪れるだけではなくて、先ほどお話にあったように、訪れた人が立川を住む場所として選んでもらえるようにしていきたい。これはささやかであり大変な目標なんですけれども、私が市長やっている間はなるべく、日本の人口は減ってくるけれども、自然減はこれなかなか避けられないと思うんですが、特定不妊治療の助成等も来年度から実施をするようにいたしますし、少しでもそういったところで下支えをしながら、選ばれるまちとして社会増を誘引をしていくという形で、目標としては私の任期、市長をやっている間は立川市の人口を減らさない、減らない、逆に少しでも、微増でも増えていけるようなまちの魅力をつくっていきたいと思っております。

感想でございますが、少し短めにまとめています。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、そのほか御意見ある方。一番後ろの方、お願いいたします。

(参加者)

こんにちは。

(市長)

こんにちは。

(参加者)

市長、「西砂からの風」、見ました。ごみのすごくいい記事だなと思いました。ありがとうございます。

(市長)

ありがとうございます。YouTubeも、立川のYouTubeチャンネルで職員が僕のことをいじってパロディー調に動画配信していただいていますので、併せて御覧になっていただければと思います。

(参加者)

後で見えます。ありがとうございます。

今、立川の魅力という話が幾つか出ているんですけども、そこで私がいつも思っていることを少し話させてください。

(市長)

ありがとうございます。

(参加者)

立川の魅力って、駅周辺の都市型に発達している部分というところと、それから農地がまだ豊かに残っているというところ、それが2つというか、共存しているというところが立川の魅力なのかなと思っています。その魅力をさらにもっと大きくしていく。そして、ほかのまち、特に農地を抱えたまちとの差別化を図っていくというところで、オーガニックなまちとか、循環型のまちというのを目指していけたらすごくいいなと自分の中では思っています。

オーガニックというと、化学肥料を使わないとか、化学農薬使わないとかいうふうに大体定義されるかなと思うんですが、それは農業に携わる人の安全とか、農地の豊かさを守っていくという意味でも大事だと思うんですけども、特にここ数年で海外の情勢により野菜の値段がすごく高騰していくというところには、日本の農業の抱えている課題、化学肥料はほぼほぼ輸入、農薬も輸入していかないと作っていけない。本当に海外から資材を入れていかないと成り立っていかない農業というのがあると思います。もっと言ったら、種自身が海外で作ってもらわないと、日本では種が作れていないというところもあって、もし海外からのそういったものが止まってしまうと、何もかもが高騰するし、行く行くは食べられなくなってしまうというところが見えてくると思います。

そういう意味でも、さらに化学肥料、農薬に頼らない土づくりを中心とした農業に転換していくというのは、自分たちの食料安全を考えたときにすごく大事なことなのかなと思います。そういう意味で、オーガニックのまちと打ち出して、立川印という野菜がありますけれども、それをさらに進めて、オーガニックなまちと言っていくと素敵だなと思っています。

あと、循環型というところでいうと、ごみの問題で、小さい団地に住んでいますが、自分のベランダで、堆肥、土の中で、土に戻すということはやっていますけれども、追いつかない。キャベツの葉っぱとかトウモロコシの皮とか、そういったものを可燃ごみとして出すんだけど、ごみではないよなとも思っています。

そういう中で、海外の例になりますけれども、イタリアとかドイツとかでまちの中にそういった生ごみというか、加工されてない部分を回収するボックスがあって、それを市として回収して、ごみではなく肥料として土に返していくという仕組みがあると海外では聞いているので、そういった仕組みがあって、立川で採れた野菜の可食部でない部分は立川の土に返していくといった形で循環が進んでいくと、すごくいいんだよなと思っています。

あと、フードマイレージという観点からも、立川で採れたものを私たち立川市民が食べていく、小学生が食べていくというふうになると、本当にほかのまちとは違う。今日お昼どこで食べる？ 国立でもいいけどやっぱり立川で食べたいよねと選んでもらえる。住んでもらえるという意味でもいいし、IKEAがあるから来るのではなくて、立川で食べる御飯がおいしいから立川で食べるというふうになるとすごくいいよなと思っています。

市長の意見を聞きたいです。

(市長)

ありがとうございます。まさに僕とほぼ考え方が一緒の方なんだなと。

僕もよく取材を受けるときに、立川の魅力は何ですかと聞かれたときに、一つは駅前の

商業的なにぎわいがあり、また国営昭和記念公園のような緑豊かな公園があり、また住宅街があり、そしてまだ都市農業が残っているというところが、全てがベストミックスをされているところが立川市の魅力なんですというようなお答えをするようにしております。

そういった中で、オーガニックという部分に関しては、これ、農家さんと話してみないと、JAさんとかと話をしてみないとなかなか、実態もどういう肥料を使われているのかも分かりませんし、またその御協力をお願いしても生産者としてのいろいろお考えがあるので、そこは一朝一夕にはどうなのかなということはあるんですけども。

その中で、今、立川印ってお話をさせていただきましたので、立川市の農産物を少し。これは前市政の中でも取組を進めてきたことで、来年度どの時期になるかなとは思っているんですが、実は立川というとウドじゃないですか。でも、ウドってなかなか料理が難しいですね。でも、最近聞いたら、ウドの肉巻きをするとおいしいよというので、アスパラベーコンみたいな感じでいただきました。あれ、なかなかおいしいんですよ。立川イチゴというのを作ってみたり。

それ以外に、この間、昨年だったか、立川市の職員が、職場の中でいろいろ立川市をどういうふうにするかという職員の業務改善の発表会があって、そこで立川市は東京都内で、今話題のブロッコリー、指定野菜になりましたけれども、出荷量というベースですが、立川のブロッコリーというのは都内で一番だと。でも、練馬にほぼ追いつかれているということで、こういうブロッコリーを立川から発信して、ただ発信をするのだと面白くないので、練馬と一、二を争っているんだったら、宇都宮と浜松の餃子対決みたいに、立川と練馬で何かコラボレーションをしながらブロッコリーをPRしていくとかしたら面白いんじゃないかと。

ただ、これ、農家さんの御理解いただかなくてはいけないので、チームを組んでいた職員たちに関連する課長さんたちも応援するから、やってみない？ という話で、やってみようという話になった。若手の職員たちが農家さんのところにもプレゼンテーションをしに行って、一定の御理解はいただいたみたいなので、6年の中でブロッコリー祭りをやってみたいなというふうな形で、立川市を農業でもプロモーションしていきたいと思っています。それはComing Soonになるのか、少し時間がかかるのか。年に3回ぐらい収穫期があるらしいんだけど、秋ぐらいが一番出荷量が多い。そこに合わせて、何か練馬区とコラボレーションでできればなと考えている次第でございます。

また、ごみの、堆肥のことにしても、これも議会で電気を使ったごみの堆肥化の話が出て、それ電気代が余計かかるんじゃないの？ みたいな向きと、でもそれはそれで利用されている方もいて、市も助成金を出しているという話がありました。

今、御提案のあったのも面白いなと思って聞いていました。今、生ごみの分別のモデル事業を大山自治会でやっていて、それを広げようと思っているんです。5世帯ぐらいからで、グループをつくっていただいて、取組を進めていこうと思っていますので、生ごみの堆肥化という部分についても、今後もそういったチームがどういうふうにできていくのかと、ちょっと面白いなと見守っています。

今、これも4月1日からJ:COMさんで市長のお散歩番組、近隣市の「長々と散歩」という番組をやっていて、これ、J:COMさんに入っていなくても、スマホで「ど・ろーかる」というアプリをダウンロードしていただくとJ:COMの番組を見ただけなんですけれども。その中で、リサイクルセンターとたちむにいのPRをする番組を先日撮

ってきたんですが、リサイクルセンターの中では剪定の枝を破碎して、そこに生ごみの残渣みたいなのを混ぜて堆肥化したものを、市民には無料で、農家にもお渡しをしているということもあって、市外の人はお金頂戴ね。いい肥料ができているみたいなので、そういった環境の好循環のまちにはしていきたいと思っております。

また、来年度の新規事業の中では、企業さんで売れ残った食べ物、売れ残りそうな食べ物を食品ロスにしないように、「タベスケ」という特定の事業のサービスを使うんだけれども、それを欲している、お値段安く買えるようなフードシェアリングみたいな形の新しい取組を、要は食べ物を無駄にしない。また、企業にとっても少しでもそれを産業廃棄物としてのお金のコストがかからない。少しでも売上げにつながって、市民の側は安く買える。市としてはごみが減らせるという取組を、来年度から始める予定でございます。

そういったことも含めて、立川市の中で地域循環環境都市で、環境問題はお金がかかるという話ではなくて、環境を通じて地域の経済が少し循環するような、逆にお金をもうけられるようなことも何か仕掛けとしてはしていきたいなというのを、経済産業省の方ともこの間、環境対策に関してはただ単にお金を使ってコストをかけるのではなくて、経済という言葉 키워ドにして何か地域の経済が回るように僕はしていきたいんですということで、経済産業省で新しい事業をするときには立川でモデル事業というのを協力しますから、ぜひ何かやらせてくれということはお話をしていたりします。

以上でよろしいでしょうか。

(司会)

たくさんの御意見、ありがとうございました。そろそろお時間となりました。

(市長)

あと、まだ手を上げていた方、どなたか、最後。勝手にやっちゃってごめんね。

(司会)

では、最後をお願いいたします。

(参加者)

最初のほうに話ありました方の内容と一部同じなんですが、富士見町でほかの関係で地域懇談会がありまして、そこで富士見町で困っていることという中で、バスがなくなって不便だいただきましたので、皆さん、市長も御存じだと思いますが、そういう意見が多かったので、一応報告をさせていただいてよろしいでしょうか。

(市長)

ありがとうございます。このバスの問題は市議会でも話が出まして、今、2024年、もうすぐこの4月からなんですけれども、働き方改革の中で、そういった、タクシーではなくてトラックの運転士さんだとか、お医者さん、学校だとか、あとはそういうバスの運転士さんだとかの、要は人材不足も大きい。さらにはバス会社、あるいはそういった事業者がなかなか利益を上げにくいという状況の中で、いかに公共交通、地域の皆さんの足を守っていくのかということについては、これは本当に大きな課題だと思っております。

なので、基本的にはもうけられるところは、公共交通でちゃんと利益が得られるところはちゃんと維持をしてもらう。

ただ、僕の考え方としては、もうからなくても何が何でも公共がやればいいという話では全然ないと思っていて、なかなか大きいバスでは採算が取れないところを、じゃあ小さいところでどういうふうやって、一定の利用者がいるということが前提で、赤字になる

べくならないような、枝の部分はどういうふうに構築していくのかを考えています。これは地域の住民にとっても、市内全域、全体としても、ただ単に税金でやればいいんだという話ではなくて、税金の投下というのは、僕はなるべく財政規律は守りたいと思っています。財政破綻させたくないのも、何でもかんでもばらまきするつもりはありませんので、あれもこれもではなくて、あれかこれか。あれもこれもしたいときには、どういうふうにやったら立川市としての負担が極力抑えられるのかという観点をしっかりと持ちながら、地域の皆さんの要望にいかに応えていけるのかという視点で、いろいろと制度設計や、市の職員の皆さんにもそういう思考回路で考えてほしいということをお願いをしています。

富士見町地域の交通不便地域の対策にも、来年度いろいろと調査をさせていただく中で、ぜひそういった声をどんどん出して、この地域、本当に不便だけど、ここの地域にこういうのがあったらこれぐらいの利用者がいるんだみたいな話をいただけると、いろいろな手を打っていきやすいんだよなと思っておりますので、そういう声がどんどん多ければ多いほど、あったら使うよという声を、していただけると、そういう政策を打ちやすいので、どうか引き続きいろいろな御意見を賜ればと思っております。

(参加者)

すみません、簡単に一つ。

(市長)

どうぞ。

(参加者)

ありがとうございます。バスのことでつながるなと思って。

広報広聴係のほうに、市長に言うと、富士見町のバスの件について、令和6年度にアンケートをやって令和7年度に再編に向けてやるということで、伺いたいことは、令和6年度、4月から始まるアンケートを富士見町の方とかが答えたいというときには、アンケート用紙というのはどこにあるのかというのとか、ポスティングされるのかとか、その辺どんな感じなんですか。

(市長)

すみません。その部分については、まだ詰めていないです。実は何で令和6年度かというのと、約2,000万円かけて調査をして計画を立てるということなんですが、東京都が1,000万円まで半分助成金を出してくれるから、これ、使わない手はないなというところで、全体として2,000万円丸々になるかどうかは別なんですけれども。

その中で、いろいろとアンケートの方法だとかいったものを、今後、令和6年度予算をお認めいただいた上で、具体的な調査の制度設計をしなくてははいけませんし、また、そういうことの専門のコンサル等も入れながら、ただコンサルの言うとおりにやるのではなくて、コンサルをどう使いこなすのかだと僕は思うんです。コンサルがこう言ったからそれでオーケーということではなくて、立川市がどういう方向性でどういう意見を取りたいのか、それについて専門的な立場からどういう方法があるのかということを知るのが、僕はコンサルの使い方だと思っています。

そういったところで、地域の声の集め方、他の市の事例等も、参考にしながら、従来のやり方どおりでいいのか。アンケート用紙を皆さんに、はいと配って、どうぞと言って、でもそれだと意見が偏るじゃないですか。関心のある方と関心のない方が分かれてしまっていて、それというのは、先ほどサイレントマジョリティーという話がありましたけれども、

逆にクラウドマイノリティーという言葉もありますよね。そこにあまり引っ張られないように、本当にサイレントマジョリティーの方々がどういうふうに思っているのかということとを公平に、広くして、最大公約数で政策をつくっていくのが僕は本筋だと思っているので、周知の仕方については、今この時点でこうしますと言えなくて大変申し訳ないんですけれども、令和6年度以降コンサルの方等とも意見を聴取しながら、皆さんに幅広い御意見を頂戴できるような方法を示していきたいと、また実証していきたいと思っております。

(参加者)

ありがとうございます。

(司会)

ありがとうございました。

(参加者)

あと、「ねとらぼ」さんの調査で、立川市が、中央線の東京駅から高尾駅の中で、20代で住みたいまちのナンバーワンになりました。

(市長)

ありがとうございます。

(参加者)

一つ、共有します。

(市長)

それ、僕が市長になったからというわけではないよね。だったら、さらにすごくうれしただけでも、そうなれるように頑張ります。ありがとうございます。

(司会)

本当にたくさんの御意見、ありがとうございました。

3 閉会の挨拶

(司会)

それでは、最後に市長の酒井より、閉会の御挨拶を申し上げます。

(市長)

すみません。本日は大変貴重な御意見を賜りまして、ありがとうございます。

また、私の話が相変わらず長いもので、市長になって輪をかけて思いが募っておりますので、長くなりました。本来であれば、もっと話したいんですけどもという方もいらっしゃるかもしれませんが、こういった機会は私にとっては大変貴重な市民の皆さんのお声を聞く機会でございますので、今後とも定期的に行ってまいりたいと思います。

ぜひ立川市に御注目をいただき、立川市政を変えていく。行政と市民は対立構造ではなくて、共に立川市を前へ進めていく。立川市が市民に選ばれる、そして満足をしていただける。また、他市の方にも、ただ単に立川市は交通の結節点ではなくて、立川市をまねしたいねと他の行政に思ってもらえるような市政運営を行っていききたいと思っております。

また、これには当然、今日、地元の議員では瀬議員だけがお越しをいただいておりますけれども、地元の議員の皆さんにもいろいろと御要望をお伝えいただきながら、市長として予算提案権は市長しか持っていないんですが、予算を議決できるのは議会の側だけでございますので、そこはそれぞれの役割をしっかりと担いながら、共に立川市政を進めていききたいと思っております。

行政、議会、市民が3者一体になって取り組んでいききたいと思っておりますので、どうか引き

続き御協力賜りますように心よりお願いを申し上げます、話の長い市長からの結びの御挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。(拍手)

—— 了 ——